

**第5次和歌山市地域福祉計画策定に係る  
福祉施設及びNPO団体ヒアリング調査  
結果報告書**

**令和6年7月  
和歌山市**

目次

I	団体ヒアリング概要.....	1
1	団体ヒアリングの目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	ヒアリング日程.....	1
II	団体ヒアリング調査結果.....	2
1	調査シートまとめ.....	2
2	各団体ヒアリングまとめ.....	6

# I 団体ヒアリング概要

## 1 団体ヒアリングの目的

計画の改定にあたり、福祉関連施設やNPO団体の業務に従事されている方の意見を計画に反映させるための基礎資料とする。

## 2 調査対象

- ・障害者施設
- ・認定こども園
- ・こども食堂
- ・老人福祉施設
- ・NPO法人
- ・児童養護施設
- ・一般社団法人

## 3 ヒアリング日程

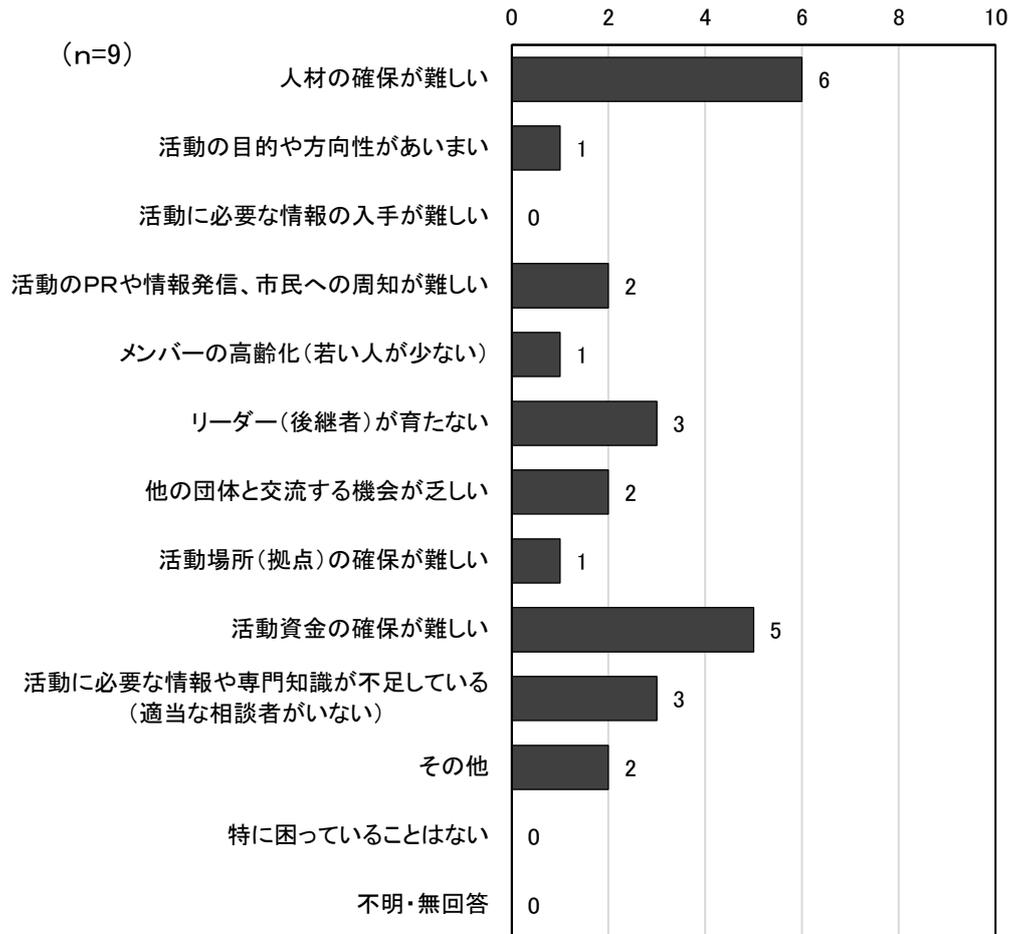
	日時	施設名（法人名）
1	6月21日 (金)	10:00～11:00 NPO法人子どもの生活支援ネットワークこ・ほうす
2		13:30～14:30 社会福祉法人 一麦会
3		15:30～16:30 社会福祉法人 和歌山つくし会 つくし幼保園
4	6月24日 (月)	13:30～14:30 社会福祉法人 喜成会
5		15:30～16:30 一般社団法人 児童養護施設支援協会
6	6月25日 (火)	10:00～11:00 NPO法人 砂山バンマツリ
7		13:30～14:30 社会福祉法人 和歌山県社会施設事業会 こぼと学園
8	6月26日 (水)	13:30～14:30 NPO法人ホッピング
9	6月27日 (木)	10:00～11:00 社会福祉法人 寿敬会

## II 団体ヒアリング調査結果

### I 調査シートまとめ

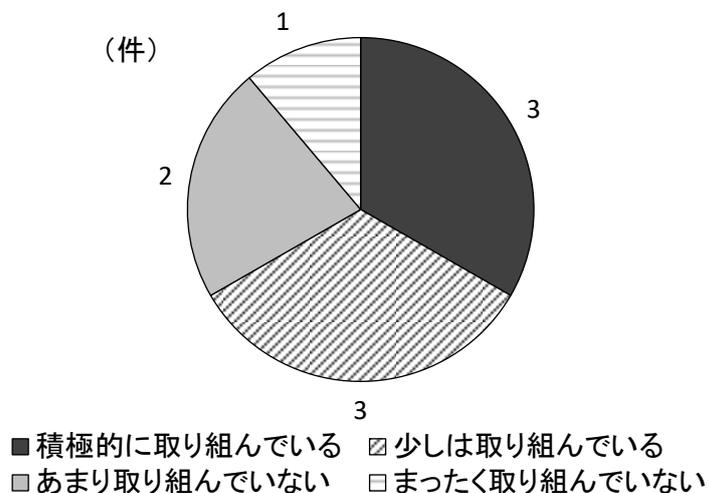
#### 1 活動や運営するにあたって、課題となっていること

「人材の確保が難しい」が6件と最も高く、次いで「活動資金の確保が難しい」が5件となっています。



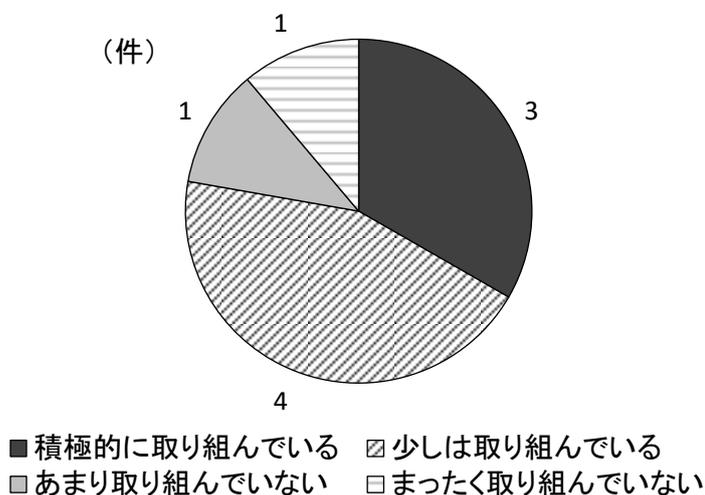
2 「《プログラムA》地域での話しあいや学習の推進」については、どのように取り組んでいるか

「積極的に取り組んでいる」、「少しは取り組んでいる」が3件と最も高くなっています。次いで「あまり取り組んでいない」が2件となっています。



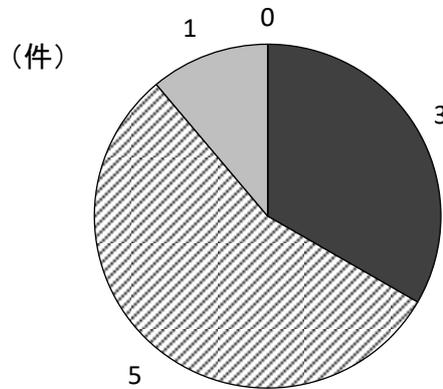
3 「《プログラムB》災害時に支援が必要な人を支える取り組み」については、どのように取り組んでいるか

「少しは取り組んでいる」が5件と最も高くなっています。次いで「積極的に取り組んでいる」が3件となっています。



4 「《プログラムC》困りごとを抱えた人への支援の推進」については、どのように取り組んでいるか

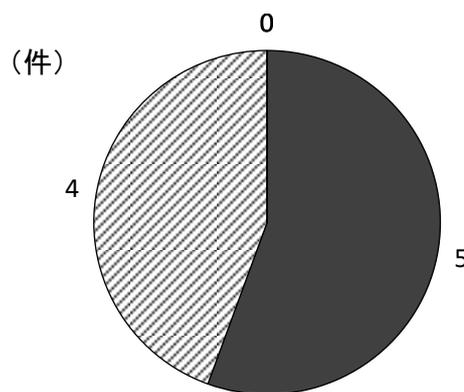
「少しは取り組んでいる」が5件と最も高くなっています。次いで「積極的に取り組んでいる」が3件となっています。



■ 積極的に取り組んでいる    ▨ 少しは取り組んでいる  
□ あまり取り組んでいない    □ まったく取り組んでいない

5 「《プログラムD》身近な相談窓口とネットワークの充実」については、どのように取り組んでいるか

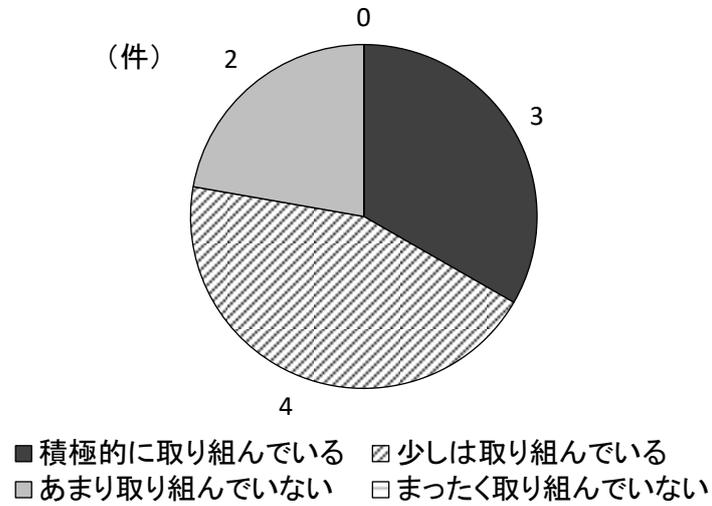
「積極的に取り組んでいる」が5件と最も高くなっています。次いで「少しは取り組んでいる」が4件となっています。



■ 積極的に取り組んでいる    ▨ 少しは取り組んでいる  
□ あまり取り組んでいない    □ まったく取り組んでいない

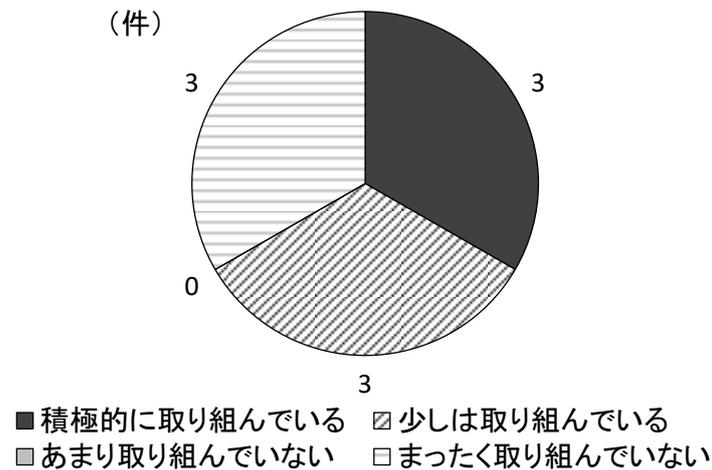
6 「《プログラムE》協働事業の担い手の養成」については、どのように取り組んでいるか

「少しは取り組んでいる」が4件と最も高くなっています。次いで「積極的に取り組んでいる」が3件となっています。



7 「《プログラムF》担い手や活動を支える体制の充実」については、どのように取り組んでいるか

「積極的に取り組んでいる」、「少しは取り組んでいる」、「まったく取り組んでいない」が3件と高くなっています。



## 2 各団体ヒアリングまとめ

### 1 NPO 法人子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす

日時	6月21日（金） 10:00～11:00
場所	楠見中 65-21
対応者	事務局長 馬場潔子

- (1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	1. 人材の確保が難しい
解決策	認定NPO取得やSNS等での発信、クラウドファンディング等による寄付金を増やす取り組み。または、自主事業収益化や行政からの事業受託を探る

〈ヒアリング〉

- ボランティアは集まってくれるが、中心を担うためには、事務能力があつて時間に余裕がある人でないと厳しい面もある。
- コアのメンバーは高齢化して、ニーズが広がるのに対応できないとなる。
- ボランティアグループでスタートし、進めるうちに対象が広がってきたため、活動を継続しようと考えると、先を見据えた育成をするための資金確保が課題となる。

選択肢	8. 活動場所（拠点）の確保が難しい
解決策	活動資金を確保するしかない

選択肢	9. 活動資金の確保が難しい
解決策	ボランティアはたくさん集まるが、運営と実践の中核を担う人を確保するには、待遇（雇用の安定）が必要。

〈ヒアリング〉

- 活動自体が民家を使って行うため、家賃の交渉や理解のある大家の方の出会いが必要となる。
- 活動拠点となる家賃補助の上限がもう少し上であればよい。
- 空き家の活用と地域交流のうまく回る仕組みがあればと思う
- コミュニティセンターも中学校区にあるわけではない。
- 通うことを考えると公共の場所だと検討しないといけない

## (2) プログラム別取り組み状況とその理由

### 《プログラムA》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	年1～2回、活動報告会や研修を実施し、地域の方にも参加を呼びかけている。小さな会があちらこちらで開かれることが望ましいと思う。

#### 〈ヒアリング〉

- ボランティアを増やすため、スキルアップのための研修を実施している。
- 地域の福祉課題はたくさんあるため、それぞれのジャンルで小規模参加型の会のほうがなにか身につく部分があると思う。
- 大規模な講習会や研修会では、一方的に話を聞くだけで終わってしまう。

### 《プログラムB》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	水管橋が落ちて、断水した際に、これまで培ってきたつながりが有効的に機能したと感じた。自治会や地域のサークルやNPOなど、日頃のゆるやかな交流を大切にしておくことが重要だと思う。そうした地域の民間活動と行政との連携にはまだまだ、課題が大きいと感じる。情報伝達や指揮系統がどのようになっているのか「協働」というなら地域にまかせるのではなく、行政が情報をしっかり把握して共有するしくみづくりをしておく必要がある。

#### 〈ヒアリング〉

- 和歌山市で大規模な断水があったため、普段からやりとりしているLINEを活用してやり取りができたことは良かった。
- 日頃のつながりから、ニーズに対応することができた。
- 学生ボランティアなどとの連携においても、LINEをうまく活用した。
- 拠点に来てもらえることで、不安な気持ちが強くなっているなかで、声掛けが大きな助けになる。
- 普段から課題がある家庭と余裕のある家庭では頼るべき存在がいるかいないかで災害時のニーズが違う
- 拠点があると情報交換の場として機能していた。
- 情報共有する仕組みづくり、個々の団体でネットワークをつなげて行っていたが、和歌山市としての動きが見えなかった部分もあった。
- 災害時では情報が錯綜しており、情報を読み解く力も必要となる。

《プログラムC》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	福祉ニーズを抱えた子育て世帯の支援をしているが、地域でボランティア組織として取り組むには限界を感じている。子ども食堂や地域福祉への期待ばかりが大きくなっていると感じる。子ども食堂で発見した課題を行政(制度)につなげることで「深刻化の予防」になればと考えるが、近年は行政から「深刻なケースのため、支援してもらえないか」と紹介がある。ニーズを把握しているのであれば、制度化していくことが行政の役割ではないのかと感じることがある。子育て世帯の貧困や困難はコロナ禍以降、物価高の影響も受け、深刻化しているため、早急な対策が必要。現場として感じるのは「自助の限界」である。

〈ヒアリング〉

- 子ども食堂はすごく困った人を対象としているわけではなく、深刻化を予防するための関係性をつくっておくことが大事。
- スクールソーシャルワーカーやコミュニティソーシャルワーカー関係から紹介をうけるケースがある。
- 深刻な状態になった家庭の紹介を受けることがあるが、公的な制度では助けることができないことをわかっているのであれば、なにか対策がとれないかと思うことがある。
- 制度で対応ができないのであれば、民間への支援も検討してほしい。
- 子ども食堂にきて、雑談をすることで気休めになっていることもあり、場に対する安心感がある。
- 悩まれている保護者に対して、カウンセリングで解決する悩みと居場所ができることでの安心感を得ることが大事。
- 災害時の際で機能したように、子ども食堂でつながっていることで地域のネットワークとして機能する部分もある
- 悩みを聞く側でつらくなる時は、ボランティア同士でフォローをしている

《プログラムD》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	日頃からつながって、困りごとを早期に発見し、早期に相談してもらえよう関係性をつくることを大事にしている。それなりに機能していると感じているが、相談機関の窓口をつないでも、利用できる制度や居場所などが少ないことが多い。相談だけでは困りごとは解決しない。今、足りていないのは地域福祉ではなく、専門機関が公的な支援制度だと感じている。福祉部局の職員を大幅に増やすべきだと思う。

〈ヒアリング〉

- 相談をうけて、窓口となっているが、どこかにつなげていくケースもあるが、一人当たりに抱えている件数が多いため、権限を持っている人に支援してほしいケースでも連絡がつかないケースもある。
- 一人20～30件もつのが限界だと思うため、正規の公務員が必要と感じる。
- 行政職員も余裕がないと対応ができないケースがある。

《プログラムE》

選択肢	3. あんまり取り組んでいない
解決策	「担い手」というのが、どういった人を指しているのか、よく理解できない。ボランティアを募りつつ、活動の担い手として、経験を積んでもらうということであれば、日々積極的に取り組んでいる。

〈ヒアリング〉

- ボランティアは増えてきている
- 参加してもらいながら、学んでいただいている部分もある
- 子育て世帯に厳しい時代になっていることも実感してくれている
- 困っている人との出会いもあって、福祉のところが芽生えることが大事

《プログラムF》

選択肢	4. まったく取り組んでいない
解決策	活動を支えてもらう側の立場であると認識している。

〈ヒアリング〉

- 団体を支えるというよりも、支えられる認識だと感じている。

**(3) 今後もっと充実してほしいと望む施策など**

- コミュニティセンターや社会福祉協議会の充実
  - ・地区ごとに集まれるスペースや無料で借りられる備品があるとよい。
  - ・そうした場所に、地域をよく知る専門知識をもったコミュニティーソーシャルワーカーが常駐していれば地域住民の活動や連携も前進すると思う。
- 子ども食堂への支援
  - ・子どもの食堂そのものは、貧困対策ではないにも関わらず、結果的に「公助の肩代わり」として利用されている現実がある。そうした状況であれば何らかの公的な支援が必要だと思う。(現状はコミュニティセンターの利用料免除のみ)
- 福祉部局の人員増
  - ・正規職員を減らしすぎではないかと思う。政策立案する余裕もないように感じている。
  - ・直接、子ども・家庭に関わる子ども総合支援センターや生活支援課などのワーカーをもっと確保して、「適切な支援」を行ってほしい。相談体制の充実を図るべきである。

〈ヒアリング〉 ※地域の変化なども含めてヒアリング

- 困難な家庭が増えたと感じるが、今の状態に課題があるのかどうかが判断つきにくい。
- 物価高で困難な状況もあり、解決しづらい問題も多くなっている印象もある。
- ぎりぎりの中で、過ごされている保護者もいるので、いつ深刻な状況なってもおかしくないと思うことはある。
- 制度化ができないものも多く、制度の狭間で悩んでいる人は多くなっており、相談対応をする職員や団体のメンバーなど数を求めることが多くなっている。
- 人材不足といわれる時代のなかで、あたらしい仕組みが必要ではないか。

## 2 社会福祉法人 一麦会

日時	6月21日（金） 13：30～14：30
場所	和歌山市岩橋 643
対応者	統括部長 鈴木栄作

(1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	1. 人材の確保が難しい
解決策	法人や事業の魅力伝え、求人への努力を継続していく

選択肢	6. リーダー（後継者）が育たない
解決策	働きがいややりがいがある職場風土を再構築していく

〈ヒアリング〉

- 求人については苦勞している
- 配置基準は満たしているが、現場では不足感を感じている
- 事業所間での転職も多くなっており、事業者間で競争になっている
- B型作業所の定員はうまらない

選択肢	9. 活動資金の確保が難しい
解決策	3年に一度の報酬改定により安定した事業運営が困難なため、行政との現状を交流し合える機会が必要である。

〈ヒアリング〉

- 国の報酬改定によって、左右されている。
- 利用者がきて報酬が発生するため、利用者が来ないと先を見越した経営はできない。
- 定額報酬で事業所が守られることが大事だが、先を見越した事業展開とはいかないため、葛藤がある。
- 職員は配置しないとイケないが、利用者がいないと報酬がでないため、職員を配置できない場合もある。

(2) プログラム別取り組み状況とその理由

《プログラムA》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	西和佐地区と障害の理解を促進するために、春のさくらまつりを開催している。コロナ禍をのぞき、20年間開催している。山口地区では、地区社協とともに機関誌の発行を長年継続している。今年で100号になる。

〈ヒアリング〉

- もともと法人ができたときから地域との連携を大事にしている。
- 桜祭りは必ずおこなっていた。夏祭りはコロナ禍で中止もあったが、夏まつりは人がおおくなって、敷地内で収まらないことや、熱中症になるリスクを避けるため、現在は中止となっている。
- さくらまつりをはじめとして、地域の連合自治会長や地区社協と連携がある
- 障害の偏見で反対もあった（30年ほど前）理解は進んできたが、グループホームは反対されることもある。

《プログラムB》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	法人本部（麦の郷）は福祉避難所の指定を受けている。法人内では安全対策委員会を設置し、日常より災害に対する意識を高めている。しかし、地域との防災訓練などの実施ができておらず、今後の課題となっている。

〈ヒアリング〉

- 福祉避難所であることは地域の人がすべて知っているわけではないが、必要とする人に知ってもらうことが大事。
- 災害に対する意識を高めているが、地域との防災訓練などが実施できていない。本来であれば、施設利用者も含めた訓練となることが理想だが、職員のみ対応となっており、災害がおきた際に対応ができるのか心配している。

《プログラムC》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	法人内の相談事業所で、生活支援課と支援事業の連携を進めている。しかし、相談に留まり、事業の活用にまでは至っていないのが現状である。

〈ヒアリング〉

- 相談事業については、ニーズがあまりなくて、積極的な受け入れがない。
- 2～3か月に1回は関係機関と情報交換をしていた。
- 相談事業は障害のある人にとってハードルが高いところもある

《プログラムD》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	法人内の市内2か所、市外2か所で相談支援事業を展開している。障害のある方や家族の生活や就労支援に関する相談を中心とし、ひきこもり、子どもの不登校など多岐にわたる相談支援を行っている。課題はあるが、行政を含め、多機関と連携を深めながら、多様なニーズに応えられるよう努力している。

〈ヒアリング〉

- 相談にのるだけで、不登校やひきこもりなど解決にいたっていないものもある。
- 学校間での連携が難しいこと（福祉と教育の連携がうまくいっていない）や、個人情報の関係もあって、支援が進まないこともある。
- 部局間での連携を進めるなどが重要だと感じている。
- 外国人の対応として、外国人の集まれる場を提供している。
- 交流の場をつくっている。互いの言語を教えてもらうような状況である。

《プログラムE》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	法人と高齢者協同組合との連携を進めている。そのことにより、障害者の居宅支援や GH の支援など就労支援事業の生産活動におけるジュースの加工やドライフルーツなどの受託加工を行うことで農福連携を図っている。

〈ヒアリング〉

- 高齢者協同組合との連携は理事の関係でつながっている。
- 元気な高齢者が活躍できる場が欲しいといった中でできた組合でその中で、ホームヘルプ事業を担ってもらっている。
- グループホームの支援について、元気な高齢者に手伝ってもらっているが、人材が集まりにくい。
- 障害のある人の送迎の運転手なども一緒に行っている。
- 農福連携については、生産者から出荷できない産物で加工品にできないかと相談がくる。その際におかし、ジュースなどに加工している。
- 刈り取りができない農家さんへの支援をすることもある。
- ドライフルーツ、ジュースを製造すれば、販売は農家さんがされており、米粉事業も行っている。

《プログラムF》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	法人の理念に障害のあるなしに関係なく、地域の共生を実現し、互いに豊になる実践や、日々、学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展をめざすことを掲げ、努力している。

〈ヒアリング〉

- 組織内の職員研修（人権啓発研修、農福連携の学び）として、人づくりと人と人との連携をどのように行っていくのかは積極的に取り組んでいる。
- 人材育成の研修をしようとしても時間がない。
- 工賃を払っていかないといけない。そのためには資金の確保をしないとイケないが、働き方改革などで働く時間が限られる中での成果は難しい。

### (3) 今後もっと充実してほしいと望む施策など

- 次世代の子どもを地域の支え合いで育てていくことが将来的に大きな課題であると思う。データで示してほしいと感じるのは
  - ・子ども食堂の課題
  - ・不登校問題
  - ・ひきこもりの課題
  - ・ヤングケアラーの課題
- 「ひとりぼっちをなくす」施策をみんなで考えましょう。

#### 〈ヒアリング〉

- データとして不登校や引きこもりなどデータがなかった。
- 子どもが元気になって、地域が元気になるプランになることが大事。
- 子どもには障害児に配慮されていないと感じるときがある。
- ひきこもり、不登校の問題が家庭の問題なのか考えることがある。
- 保護者の責任ばかりではないことから教育委員会との連携が必要になる
- 生きづらさを感じている人はたくさんいる
- さまざまな生き方の選択を用意しておくことが大事だと思う。
- 課題となっている状況は単純な構造でなく、環境が影響している。

### 3 社会福祉法人 和歌山つくし会 つくし幼保園

日時	6月21日（金） 15：30～16：30
場所	和歌山市吉礼 486-1
対応者	園長 岡 孝江

(1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	1. 人材の確保が難しい
解決策	それぞれの分野で働く楽しさが伝わる映像による PR

〈ヒアリング〉

○配置職員としては、問題ないと感じているが、細かく保護者や子どもに寄り添った対応をしようと思うと、不足感は否めない。

選択肢	7. 他の団体と交流する機会が乏しい
解決策	近隣の学校と交流する機会はあるが、地域福祉関係団体の情報不足なので、こちらから働きかけるべきかも知れない。近隣の情報がほしい。

〈ヒアリング〉

- 地域内で交流する機会がなく、情報交換をすることがない
- 市内で NPO・団体の情報がわからない
- 特に近隣の情報があれば、こちらから交流を図ることもできるかもしれない。
- 学校との交流については、中学生体験、高校生（和歌山東高校）との交流している。
- 子供を育てる協議会があったが、解散されてしまった。
- 自ら働きかけないと交流はなくなっている。
- 縦の交流が少なくなっている。

(2) プログラム別取り組み状況とその理由

《プログラムA》

選択肢	4. まったく取り組んでいない
解決策	このような取り組みへの参加の機会がなかった

〈ヒアリング〉

- 団体さんとの交流がないため、取り組めていない。
- まつりの案内は来るが紹介をしているだけ、一緒になってやることはない。
- コロナ禍前は、OBOG 会の案内をしていた。
- 運動会も縮小（お弁当の大変さもあり）、クリスマス会なども OBOG の参加を控えたりしている。

《プログラムB》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	<p>○年に1、2回午後7時から開催の西山東地区防災会の一員として、参加し、災害時の支援体制づくりについて、研修を受けたり、話し合ったりしている。また、山東小学校とは年1回の合同避難訓練を実施している。</p> <p>○昨今の隣近所の希薄化や自己中心的な傾向から、思いやりや助け合いの気持ちが多くなく感じる。幼少期から自分の年齢より低い子との交流を通じて、やさしくしてもらった喜びを感じさせ、やってあげたい心を育てるようにしている。学校の授業の中でも助け合う喜びが感じられる活動やボランティアの楽しさを増やしてもらえたらと思う。”</p>

〈ヒアリング〉

- 合同避難訓練を小学校と一緒にやっている。
- 3、4年前、地域の炊き出しなどの訓練の一環として実施された。
- 非常食の実演会（備蓄品の入れ替えの際）を実施するなど意識啓発はしている。
- 親同士の喧嘩があるなど、地域の関わりの変化を感じる。
- 年齢の低い時からやさしく接することを大事にされている。
- 身についたことは経験が相手にもできるという信念で大事にしている。

《プログラムC》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	<p>○在園児の保護者には、個人懇談の日を設けたり、連絡帳や送迎時に随時、相談に応じたり、集団クラス懇談で意見交換ができるようにしている。</p> <p>○未就園児の親子を対象に、年30回「にこにこ広場（集いの広場事業）」を開催し、遊びを提供しながら、互いに話し合えるきっかけをつくるようにしている。回数を増やす必要性は感じるが人手が不足している。</p>

〈ヒアリング〉

- 個人懇談や連絡帳を使って意見交換ができるようにしている。
- 障害のある子ども、発達に課題をもった子どもも多くなっている。
- 人手不足があるため、回数を増やすことは難しく、本来であれば、にこにこ広場などはもっと実施してもよいと感じている。
- さまざまな地域からこられる人もいるが、丁寧に対応しようと思うと人手が不足している。

《プログラムD》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	<p>○発達につまずきのある児童に対する保育のあり方や就学に向けては和歌山子ども家庭センターや保健所、その子どものかかりつけの医療機関等と連携してよりよい支援ができるように努めている。</p> <p>○自分たちが発達につまずきを感じても、保護者がなかなか話を聞いてくれないケースもある。メディアなどを通して、気づけてもらえる方法があればと思っている。</p>

〈ヒアリング〉

- 施設に通いながら園にきている人もいる。
- 発達につまずきがある場合は1歳くらいで目が合わないことなどで気づくこともあるが、保護者に理解のない場合もあり、早期発見につながらない場合もある。
- 子どもに関わりが少ない保護者が多くなっているのではないかと感じる場面もあれば、子どもを大事にしすぎるところもあるではと感じることもある。

《プログラムE》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	<p>○短大等の保育者養成施設の実習生の受け入れ</p> <p>○中学生の現場体験の受け入れ</p> <p>担任を持ったうえでの指導には限りがあり、積極的に取り組んでいるとはいえない。(人手がほしい)</p>

〈ヒアリング〉

- 積極的に受け入れようと思うと実習生を受け入れる人手が少ない。
- 同一労働同一勤務の規定で、非常勤と常勤の規定が厳しくなってきた。
- 産休や育休で休んでいるため、新たな人手を入れてしまうと帰ってくるころはなくなる。

《プログラムF》

選択肢	4. まったく取り組んでいない
解決策	-

〈ヒアリング〉

- 団体さん同士の連携が生まれれば、今後発生してくると思っている。

### (3) 今後もっと充実してほしいと望む施策など

○地域で交流できるような事業の推進

〈ヒアリング〉

○地域のまつりなどで交流事業の推進が必要と感じている。

○縦の交流や横の交流が必要だと思う。

○しんどいことはいや、めんどくさいと感じるはいやなため、役に回ることは負担になるからやりたくないとなっている。

○人が増えている地域と減っている地域との関わりが減っていると感じる

○保護者間でのトラブルも増えている印象もある。

○みんなで子どもを育てる気持ちを持ってほしい。

#### 4 社会福祉法人 社会福祉法人 喜成会

日 時	6月24日（月） 13：30～14：30
場 所	和歌山市北野 128
対応者	施設長 向井博子、事務長 植泰彦、部長 西和宏

(1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	1. 人材の確保が難しい
解決策	多様な人材の活用（外国人、高齢者、障害者等）

選択肢	6. リーダー（後継者）が育たない
解決策	将来、活動できるリーダー候補の人材育成が困難なため、いかに総合職の人材を確保するか

選択肢	9. 活動資金の確保が難しい
解決策	活動資金の確保を生み出すかを考えていくこと

〈ヒアリング〉

- 福祉に限らず、全国的に人材不足だと思う。
- ケアマネは業務に追われて、地域に入っていけない現状もある
- 人材の採用にあたって給与の関係から資金の確保が問題となっている
- 社会福祉を勉強した人を募集してもこない。特に大卒で来られる人が来ない、福祉分野の資格を有していても、他の企業へ就職する人も多くなっている。
- 外国人の方もいる。2名と留学生1名（学生から資格）、特定外国人1名（5年）

(2) プログラム別取り組み状況とその理由

《プログラムA》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	生活支援体制整備事業を通して、取り組んでいるが、今後、子ども食堂（多世代交流の場）の活性化と数を増やすことが課題となっている。また、そこを担う人材の育成が課題となっている。

〈ヒアリング〉

- 生活支援体制整備事業を中心に子ども食堂などを行っている。(コロナ禍前からスタート)
- 子ども食堂は土曜日に多世代交流の場として実施している。
- 今後は、学習の機会をつくることが課題と感じている。
- 参加者に子どもよりも高齢者が多いが、交流の場であることを求めているとのことで、実施できていることもある
- 運営するためのスタッフが必要となっている。
- 現在はケアマネジャーなどがしてくれているが、人材の不足も感じられる。
- 生活支援体制整備事業の実施する中で、地区ごとに取り組みを決めて実施した。
- それぞれ地区で話し合ってもらって実施できている

《プログラムB》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	地域の方々との協働での訓練の実施が難しい。今後、いかに訓練の質を高めていくかが課題である。

〈ヒアリング〉

- 自治会で実施する災害訓練に参加している。
- 災害訓練は職員の方が中心となっているが、施設を利用する高齢者も参加している。
- BCPの策定も義務付けとなっている中で、訓練の実施日を決めて、実際の災害を想定して訓練を実施しないといけない。
- 災害時には、各事業所と本部、行政との連携ができるかどうか訓練しておかないといけない。
- 訓練の質を高める動きが必要となっている。
- 地域の人との交流は日々ある状況(まつりなどの実施を通して)であり、地域の人との協力的な関係が築けている。

《プログラムC》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	地域包括支援センターや第2層生活支援体制整備事業にて取り組んでいる。特に居住の確保について、課題にあたることが多く、居住支援法人や養護などの空きスペースを使って、確保できていくような取り組みを進めることが必要と感じている。(措置控えにより空家が目立っているため)

〈ヒアリング〉

- 生活に困難を抱える人の居住の確保については、課題が多くある。
- 高齢者からするとある程度、有料のもがあるが、制度の狭間で困っている人に対して、何とかならぬいかと考えることもある。
- ある程度、資金のある方はやれることがあるが、そうでない方の対応が必要。
- 住まいの相談はきていることが多い。

《プログラムD》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	身近な相談窓口については、包括支援センターや第2層 SC がその役割を担ってくれている。今のところ対応はできていると感じている。今後は、自治会内の会議などへの専門職が入り、よりスムーズな課題解決になっていけると思う。

〈ヒアリング〉

- 和歌山市から地域包括支援センターの委託を受けてしているため、基盤ができている
- 日頃より、連携が図れていると感じている。
- 小学校の行動を借りて講演会を実施した。(350人集まってくれていた)
- 田植えで忙しい時期でも地域の人に来てくれている。(日本生命財団、発表会を実施)
- 男性料理教室として毎月、続いている。
- ふれあい食事会は2回実施している。
- 自治会への会議に参加している。
- 専門職が入ることも増えているが、地域の行事決めなどの会議などに入っていけると、さらに情報が共有できることもあるかと思う。

《プログラムE》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	第2層生活支援体制整備事業で課題に取り組んでいるが、コーディネーター役となってもらえる人材の確保が課題となっている。地域の自治会との協働がスムーズに行えるよう、行政としても窓口の一本化なども必要だと思う。

〈ヒアリング〉

- 事業の内容を説明してもらっているが、事業の目的に応じて、窓口の違いがあることが分かりにくいところがあるのではないか。
- 住民にとって、同じことだが、窓口がわかりづらいかと感じることは多い。
- 地域との連携は祭りなどを通じて行ってきた。
- 夏祭りを開催すると多くの人に参加してくれるが、地域の夏祭りが減ってきているように思う。
- 祭りなどのイベントは実施していきたいが、運営するための担い手がない。
- 運営などの段取りをするのは高齢者が多くなっている。
- 本当は若い世代に準備を引き継いでいきたいと感じている。

《プログラムF》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	圏域で子ども食堂（多世代交流拠点）等、住民が参加できる場所の充実を図ることが重要だと感じている。

〈ヒアリング〉

- 子ども食堂の場所も増やせたらいいのではないかと感じているが、人材を増やしていかないといけない。
- 地域の人からは自治会館を使ってもよいとも言われている。

（3） 今後もっと充実してほしいと望む施策など

- 生活困窮者の住居の確保等の施策を検討してもらえたらと思う。
- サービス付き高齢者住宅や有料老人ホームで実施されているビジネスでは介護保険料の増大につながっていると感じている。

〈ヒアリング〉

- 宅地開発すると新しい地域の人が入ってくると、もともと住んでいた人との連携が心配になっている。
- 行事にはきてくれているが、顔見知りになっていない人が多い。
- 地域の人も積極的に動いてくれたら、新しいなにかをはじめられる可能性がある。
- 介護保険を限界まで使われたり、補助を受けれるものを使って行われるビジネスが多い。
- 社会福祉法人として、そうしたなかで困っている人も見ないといけない。
- 民生委員も入って考えているが、解決策がわからずに困っていることもある。
- 地域交流センターで食事会を行っている。
- 男性料理など新しい方が来られるときはご紹介が多い。

## 5 社会福祉法人 一般社団法人 児童養護施設支援協会

日時	6月24日(月) 15:30~16:30
場所	岩出市宮 71-1 パストラルビル 1-D1
対応者	理事長 尾上伊織

(1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	1. 人材の確保が難しい
解決策	現時点では不足なしたが、活動の周知に注力する

選択肢	4. 活動のPRや情報発信、市民への周知が難しい
解決策	Web 媒体への投資

選択肢	11. その他
解決策	話し合い(共有、課題、ケーススタディ 等)

〈ヒアリング〉

- 人材確保について、事業を拡大するのであれば不足している状態。
- 事業や理解促進のための周知が必要な部分はある。
- 自立援助ホームなどしてほしいという声もあり、実施を検討している。
- 親がいない苦しみについて、国としては施設よりも里親としているが、当事者からするとニーズに違いがある。
- 親がいる人といない人で考えが違う部分はある。
- 施設でやってもらっていたが、年齢が18歳までとされていたことでできないこともあった。
- 現在は、緩和されて18歳以降でもいてもよいとなったが、施設自体が18歳までにできるような目的でまわっている。
- 生活保護がおりにするまでに時間がかかるのはいいが、働けるのに、お金がもらえることを知って、働くことを促さずに動いていることもある。
- 施設自体が、生活保護を付けた状態で一人暮らしをはじめさせるケースがある。
- 頼るときに頼るべき相談者がいないだけで、生きられないわけではない。
- 本人の意向を無視して、手厚くしているところもあるではと感じることもある。

## (2) プログラム別取り組み状況とその理由

### 《プログラムA》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立援助ホーム運営において、被虐待児の保護、支援、社会交流のための地域事業者、地域住民の理解と協力を得ている。</li> <li>・ 市民の情報不足、知識不足により、何が問題なのか、自分に何ができるのか自体理解できていない。</li> <li>・ そもそもわかやま・元気ふくし計画自体を存じていないように話し合うだけでなく発信にも注力していく。</li> </ul>

### 〈ヒアリング〉

- 和歌山にきて、3年くらいだが、子ども施策に関連した情報が届かないことが多い。
- 地域福祉計画のような計画を立てていること自体も知らない人もいる。
- 市民の人は自分の行動が助けになっているとわかれば参加してくれる。
- 自分の役に立つことがわかれば、動くこともあるため、機運を醸成するための仕組みができれば、地域だけの限定の情報を出すと人が集まる部分もある。
- こうした参加から交流が生まれる
- 子どもたちの理解が進まずに仕事に就けない状況もある。
- 加太での取り組みは地域を回って、空家探しの中で関係ができた。
- 交流ができたことではじめた事業もあった。

### 《プログラムB》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当協会のサービスを通じて地域住民と SNS にてグルーピングし常時連絡ができる体制</li> <li>・ 災害後の一時避難場所として鉄骨プレハブ設置（能登半島地震実績あり）</li> <li>・ 当協会への理解は感謝しているが、ご近所同士のふれあいや、災害への当事者意識が不足している。</li> <li>・ 地域が一丸となったイベントや勉強会の開催及び情報発信等</li> </ul>

### 〈ヒアリング〉

- 常日頃から連絡を取り合っていることが大事。
- 全体的に危機管理がなっていないと感ずることがある。
- 和歌山では災害が起きれば、東海道本線から外れる分、普及遅くなると思われる。
- 災害については、経験していれば、行動に移せる人もいるが、災害を経験していない人が多いため、備蓄品は使って回さないといけないなど、災害について、もっと知らないといけない

《プログラムC》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web 相談窓口及び相談専門ダイヤルを設置</li> <li>・ 関係機関（児相、子相、アドボケイト団体、拠点事業、児童養護施設等）との連携</li> <li>・ 和歌山市、紀の川市、岩出市、有田市の子ども食堂へ食材（惣菜、お菓子等）寄付</li> <li>・ 高齢者への移動販売（紀の川市委託事業）</li> <li>・ まだまだ認知されていない</li> <li>・ 110 番、119 番、最近では 189 番のように国を上げて県をあげて取り組む</li> </ul>

《プログラムD》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	プログラムCと同様

〈ヒアリング〉

- 関係機関との連携をとったりはしているが、紀ノ川市との移動カフェなどは元気な高齢者との交流、見守りとして、地域の状況を把握するようにしている。
- 現状よりも、高齢者の家に回る仕組みが必要となっている。
- 事業自体は子どもに特化しているところもあるが、次の世代が育っていないと思う。
- 地域の希薄化や高齢化によって、地域の実情を知る人が急にいなくなる怖さがある。
- 189 番の普及していることから、虐待相談件数が増えているように思うが、もともと相談したいと思っている人が多い認識も持っておかないといけない。
- 職業紹介などしているが、携帯・タブレットなどシンプルで分かりやすくしないと普及していかない。
- 行政が発行する媒体やHPは必要な情報にたどり着くまでが難しい。
- アプリなどもできてきているが、シンプルにすることが大事。
- スマートフォンの教室は活発化しているが、継続性と回数が少なく、触れるための教室よりも使えるようになるための教室であることが求められている。

《プログラムE》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の事業者（農業、漁業、旅館）へ発信し、理解していただき、支援をいただいている。（理解の上で農家の方々による農業指導、釣り人によるお魚の提供、旅館での就労へと行動へ）</li> <li>・ 他団体及び地域事業者と協力したイベント開催（子ども食堂利用者招待等）</li> <li>・ 実施団体が当協会のみ</li> <li>・ 事例を展開し、実施団体を増やしていく</li> </ul>

《プログラムF》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	プログラムEに同様

〈ヒアリング〉

- 地域の事業者と一緒にすることで、若い人もやりたくなる。
- 農業指導については、地域の農家が集まっている団体があり、日々のつながりから指導することにつながった。
- 農家の作物の残りものを格安に買い、こちらで販売することで互いに Win - Win な関係性ができる。
- 人と交流することで互いにやれることが増えて、縁をつなげていくことが大事で、やってもらうだけだといつか終わる。相互に行っていることが大事。

(3) 今後もっと充実してほしいと望む施策など

- 県と各市町村の垣根を超えた和歌山県オールの取りこぼしのない取り組み
- 古き踏襲を捨て新時代である今の多様性に沿ったダイバーシティな県政、市政、人事
- 今回のように市民に耳を方向け、本当の意味での現状を理解し、市民の幸せにつながる政治
- 和歌山県のみならず日本国は人口減、出生率減、若者減による国力の衰退という大問題と直面しているのは周知の通り。出生率を上げるために子ども子育て支援法の改正や外国人の流入等も大事だと思うが、今そこにある人的資源にスポットをあてていただきたい。当協会が縁する子どもたちは本来の愛情を注がれるべき親から虐待を受け心が疲弊した状態で我々と出会うが、愛情を注ぐことで蘇生し社会に貢献する人材へと変貌している。しかし、現状は腫物に触れないように（以前よりもメディアでも取り上げられるようになったとは感じているが）扱われ表舞台に出にくい状況だと感じている。（被虐待児を救うことができているのは被虐待児全体の10%未満というのが全国の現状）唯一子どもが選べない親で苦しんでいる子どもたちにもっと関心と理解を示した方針、施策が叶えば被虐待児は救われ、ひいては県も、国も救われていくのではないかと考える。そんな和歌山県、和歌山市になることを願っている。

〈ヒアリング〉

- 重層会議においても県と市の窓口で違いを感じるところもある。
- 今いる人材からいかに活用していくかが、次の課題ではないか。
- 期待と愛を込めるとちゃんと返ってくる子どもたちがいることをもっと知ることが必要だと思う。
- 今時に合わせすぎても、いけないが、ある程度、調和を図っていくことが大事。

## 6 NPO 法人 砂山バンマツリ

日 時	6月25日(火) 10:00~11:00
場 所	和歌山市砂山南2丁目1-4 砂山連絡所2階会議室
対応者	代表理事 榎原雅忠、事務局長 宮井三起

- (1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	4. 活動のPRや情報発信、市民への周知が難しい
解決策	現場重視の公民一体の学習会の開催

〈ヒアリング〉

- メンバーの高齢化と活動のPRが必要だと思う。
- 外国の方もはいつてくるのではないかと思う。今後、コミュニケーションが非常に大事になる。

選択肢	5. メンバーの高齢化(若い人が少ない)
解決策	好きなこと得意な事を活かす場の創出

〈ヒアリング〉

- 活動を持続するためには、自分たちが楽しく活動しないといけない。
- 活動が活発でない団体へのアプローチをしないといけない。

選択肢	11. その他
解決策	組織の再編、ネットワーク体制の構築

〈ヒアリング〉

- 意識が変わらないと感じる場面で、各セクションのリーダーが変わらないといけないと感じている。
- 交付金をうまく活用できていない団体もある。
- 団体への研修や団体が抱えるニーズ把握をしていかないといけない。
- 互いに刺激を求めることで、ネットワークは構築されていく。
- 市民が交流できる市民会議を聞くことが大事。
- 子どもは自然体験や福祉体験が大切。

- (2) プログラム別取り組み状況とその理由

《プログラムA》

選択肢	3. あまり取り組んでいない
解決策	命を守る、防災・減災体制が休眠状態など、行政側も現状を踏まえ、積極的に行動支援を行うべきである

《プログラムB》

選択肢	4. まったく取り組んでいない
解決策	要援護者の把握はできているが、取り組みはできていない。市当局が国指導のマニュアルを早急につくるべきである

〈ヒアリング〉

- バンマツリの組織として取り組んでいることがあるが、市全体をみて、まったく取り組んでいないと感じる場面がある。
- もっとやっていくためには、アクションプランを明確にすることが大事
- 市民は課題があっても動くことができない
- 環境が変わってきた状況なかで、試行錯誤をしてきたかどうか。
- さまざま団体によって活動力に違いがあることが課題となっている。
- 市民の意識を変えていくことが大事だと思う
- 次の世代に渡せるように、世代間交流など進める必要がある。

《プログラムC》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	民生委員・自治会が支援しているが、民生委員の不足、高齢者増などによる負荷増など、ネットワーク体制の構築

《プログラムD》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	自治会の強化・充実

〈ヒアリング〉

- 自治会の存続に危機を感じている。特に、高齢化が進み、役員のなり手がいない。
- 日常の活動を行っていく中で、実際に感じてもらうことが大事。
- 活動経験のない若い人にいきなりやってもらうのは厳しい。
- 人間関係のつながりがないと活動を継続することは難しい。

《プログラムE》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	人と人がつながる多様な場の創出、一緒に活動

《プログラムF》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	プログラムEと同様

〈ヒアリング〉

- 核家族も進んでいるが、人と人がつながっていないといけない
- 公民館と社会福祉を同じにしたらどうかと思っている。
- 補助金もそうだが、窓口を統一することで負担軽減できることもある。
- 組織そのものを再編できるようにしてはどうかと考えている。
- 地域の格差をうめる仕掛けがないと難しい
- 自分たちが取り組むべきことはなにかを考えながら活動する必要がある。

### （3） 今後もっと充実してほしいと望む施策など

- ・楽しみ遊ぶ場を創出し、好きなもの、得意なものを地域のために発揮する
- ・多様な社会になっている今日、地域の特性を生かした目標を自ら設定すべき
- ・テーマもつながり方も違う、様々なつながりを形成する
- ・人と人がつながる地域づくりを目指す施策化が実現してこそ地域が活性化する。

〈ヒアリング〉

- さまざま方とつながって行って、新しいことに取り組むことがでている
- 話す中で、地域の人が変わっている場面に出会ってきた
- 面と向かってコミュニケーションをとることで得られる前向きな気持ちが大事
- 人と人が話あうことで始まることがある
- 世代を超えた共感によってもたらせることが大事
- 互いに刺激しあって、一緒にやっていくことが大事になる。
- 住民意識を変える行政からのアプローチを検討してほしい。
- 行政にやってもらっただけでは地域は育たない。

## 7 社会福祉法人 和歌山県社会施設事業会 こぼと学園

日時	6月25日(火) 13:30~14:30
場所	和歌山市直川1437
対応者	主任 和田健太郎、児童指導員 吉村沙由香

(1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	2. 活動の目的や方向性があいまい
解決策	地域の福祉ニーズを知るため、現在は模索中である。

選択肢	9. 活動資金の確保が難しい
解決策	助成金の活用を考えているが、規模が大きくなるにつれて、資金の確保が必要と感じる。

選択肢	10. 活動に必要な情報や専門知識が不足している(適切な相談者がいない)
解決策	児童養護施設の強みを生かせる活動となると情報や専門知識がやや不足していると感じる。

〈ヒアリング〉

- 児童養護施設として地域福祉になにができるかがわからない。
- 子ども食堂などもあるが、目的がつかめないまま進めているところもある。
- 未就学児を対象に園庭開放もしている
- 地域福祉については、模索する中で情報を求めている段階
- 園には看護師もいることから、医療の相談もできると考える。
- さまざまな事業をはじめていくと資金が必要になる。
- 園庭開放も室外で遊ぶことは問題ないが、室内で遊ぶための準備物が必要となる。
- 園庭開放にくる保護者とのコミュニケーションをとっている。
- 地域には新しい宅地開発もあり、コミュニティの場になれば、いいと思っている。

(2) プログラム別取り組み状況とその理由

《プログラムA》

選択肢	3. あまり取り組んでいない
解決策	地域組織と連携し、情報共有を行っているが、十分ではない。

〈ヒアリング〉

- 直川地区は、地域がバックアップはしてくれている。
- こぼと学園かけつけクラブ（地域の人集まり）もある（17-16人規模）
- 毎週月曜日に洗濯ボランティアに来てくれる。また、農家の方も、学園清掃をしてくれている。
- かけつけクラブでも年に1回は情報交換会がある
- 各種団体の長と集まる機会がある。
- 人権研修会も交流も兼ねて行った。
- 大学教授と児童福祉についての講義をしてもらい、勉強会など行っている。
- 地域になにができるのかを話すとまだ、できることがあるのではないかと話しがでる。
- 民生委員との連携もあり、地域の共通理解などを促す中で、不十分だと感じる部分もある。

《プログラムB》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	地域組織と連携し、取り組んでいる。避難所として場所や備蓄食品の確保を行っている程度である。それ以上の対応は入所児童を優先すると難しい面がある。

〈ヒアリング〉

- 避難訓練などを行っていたが、コロナ禍で中止していた。
- 再開はしたが、職員だけの避難訓練となっている
- 栄養士は民生委員と一緒に炊き出し訓練にはいっている。
- 地域の方の高齢化が進み、体力的に洗濯ボランティアについては、断念するケースもある。
- かけつけクラブでも高齢化が進んでいる。
- 立地に坂道が多いため、体力的に断念する人もいる。

《プログラムC》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	民生委員・児童委員等の各種団体等と連携している。様々な困りごとを抱えた家庭の子どもへの支援体制は整えている。また、県からの委託事業として社会的養護自立支援拠点事業をしている。

〈ヒアリング〉

- 和歌山市からショートとトワイライトの利用も多い。
- 市町へのアドバイスもしており、連携はできていると感じている。
- 国は家庭教育、里親など進めているが、在宅で見る前にショートステイでみることで、入所まででできる限り負担なくしてあげればと思う。
- 受け入れの幅も広がった部分もあるが、すべては受けることはできず、お断りするケースもあるが、継続して来られるところもある。

《プログラムD》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	相談窓口として、関係機関への情報提供や連携を行っているが、児童福祉以外の多様なニーズについてはどの機関へつなぐべきか確立していない。

〈ヒアリング〉

- 児童福祉以外の相談は障がいのことなどがある。
- 専門的な相談窓口がわからないときもある。
- 県外からも相談があって対応したケースもある。
- 制度のはざまにある担当にも入っているため、体制は整っているところはある。
- 地域の福祉拠点になれたらと思う。

《プログラムE》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	学校や地域と情報共有を行っている。月に1度、地域支援についての会議を行っている。会議や研修で知識を高めている。今後、担い手の養成にもつなげられたらと思う。

〈ヒアリング〉

- 地域支援プロジェクトとして、月1回話す機会を設けている。
- プロジェクトにより情報共有を行っていくことで担い手の養成につなげている。
- 地域支援というのは地域貢献だと考え、地域から受けている助けを地域への還元ができればと思う。

《プログラムF》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	地域の様々な福祉ニーズを把握し、特に子どもをサポートできるよう地域・団体との連携を行っている。また、家庭支援専門相談員、心理士、栄養士、看護師等の専門性を持つ職員を配置し、支援体制を整えている。

〈ヒアリング〉

- もともとの持っている体制をうまく地域に還元していければいいと考えている。

### (3) 今後もっと充実してほしいと望む施策など

○様々な特性の子どもへの支援を行ってきた児童養護施設の強みを生かし、今後も地域への参加と協働へとつながるよう地域福祉計画へ参画していきたいと考えている。

〈ヒアリング〉

○地域とのかかわりの中、人と人とのかかわりが大事だと考えている。

○地域とのつながりがあることは子供たちにもいいと思う。

○世代間交流は元気をもらうことが多く、お遊戯などをみることで楽しいと感じてくれたり、子どもとかかわる中で高齢者が元気になっていると思う。

○それぞれの持つ、互いの良いところをいかす。

○地域のわというところに新しく来られる人の間に立てるのは施設が担えるようにしていくことも大事だと感じている。

○施設としては、地域支援としてつなぐことができることで、縦と横をつなげる役割を担っている。

○市内の情報が欲しいと思っている

## 8 NPO 法人ホッピング

日時	6月26日(水) 13:30~14:30
場所	和歌山市役所 会議室
対応者	理事長 貫名 茜

- (1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	7. 他の団体と交流する機会が乏しい
解決策	各団体から SNS を活用しての発信をする。

選択肢	9. 活動資金の確保が難しい
解決策	受益者からお金をもらうことは難しいが、ニーズのあるサービスに対して、ガバメントクラウドファンディングを自治体から積極的に取り組んでほしい。

選択肢	10. 活動に必要な情報や専門知識が不足している (適切な相談者がいない)
解決策	大学の先生や学生との交流や知見会をつくる。 若者 (学生) の考えがほしい。

〈ヒアリング〉

- 女性のキャリア支援、子育て支援については、受益者負担が難しい。無料でできている部分もあり、サービス化してもお金をもらえない
- 拠点はあるが、自ら出向く活動ではないため、来てもらわないと支援する対象にならない。
- アウトリーチをしようと考えていることもあるが、資金面で問題がある。
- 組織を維持するためには、ボランティアではなく、雇用によってつないでいくことが必要。
- クラウドファンディングを活用した資金調達は関係機関の協力が必要。

- (2) プログラム別取り組み状況とその理由

《プログラムA》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	コミュニティ内でするので排他的かもしれない。各個人で「これが必要だ」と感じたことを集め、子育てフェスタやイベントを定期的に地域に出向いてやってくれている。

〈ヒアリング〉

- 定期的に研修を行っているというわけではなく、少人数だけど必要だと思えば、母親たちでやろうとしていることに支援している。
- 安定的に開催できて定期になっているところも4～5団体ある
- 母親たちで行っているため、子どもは互いに見ながら活動している。

《プログラムB》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	子育て広場やその他コミュニティ内で、横のつながりをつくれるよう、人と人をつないでいる。講座やセミナーにするとアンテナをはっている意識の高い人しか集まらない。

〈ヒアリング〉

- 人と人がつながっていることが大事
- 講習やセミナーにすると意識高い人が集まるため、イメージを持っていない人にいかに意識してもらうことが大事。
- 防災のために、日ごろからつながっているということが大事だと思う。
- 団体としても親族以外のつながりをつくることを大事にしている。
- 避難時に、避難する場所にいかないと物資をもらえないなど情報が入らない。
- 避難場所の案内はしている（施設内）

《プログラムC》

選択肢	3. あまり取り組んでいない
解決策	家から出られないような人と出会う機会がない。おせっかいをしすぎると注意される可能性がある。

〈ヒアリング〉

- 困りごとの相談をうければご紹介している
- 情勢的に私生活を踏み込んで聞くこともできない
- 関係性ができてくれば、信頼関係ができてくれば話せる
- 最近では隣近所でも話すことができない。
- 支援先を把握し、パンフレットなど置くようにしている。分野によっては、とる場所を考えて配置している。

《プログラムD》

選択肢	1. 積極的に取り組んでいる
解決策	広場での掲示や保健センターとの情報交換。民間の取り組み等にアンテナをはり、伝えている。

〈ヒアリング〉

- 保健センターと民間など連携して取り組むことが大事。
- 自分たちで済む問題ならいいが、解決が難しい場合は、体制が整っているところにつなぐことをしている。

《プログラムE》

選択肢	3. あまり取り組んでいない
解決策	自団体の活動内容ではない。目の前の人を支援するためや日々の生活で余裕がない。

《プログラムF》

選択肢	4. まったく取り組んでいない
解決策	今後、必要なものと不必要なものを精査していくじきではないかと感じる。これまでにとらわれずに新しいことをした方が、いいものもあると思う。(IT活用など)

〈ヒアリング〉

- 子育て支援会でいうと次につながる団体はなく、2、3年のうちに団体が解散している状況。
- 近年では、子育てサークルみたいなものは聞かなくなった。
- 担い手については、30、40歳がなるのは厳しいと感じている。
- 年代によって、固定概念が邪魔をして、活動できないケースもあると聞いた。
- イベントごとや研修などの段取りでIT化を進めていくべきだと思う。

### (3) 今後もっと充実してほしいと望む施策など

- 子育てを中心としたまちづくりに特化したほうが良い。

〈ヒアリング〉

- 大きな公園があるまちになってほしい。
- 子どもが自由に遊べる公園がほしい。
- 地域支援拠点事業は中学校区に1つつくろうとなっていたが、10か所になった(中学校区は15か所)
- 歩いていける距離にあるところがあれば、集まれる場所がない。
- 使っていない公共施設をうまく活用してほしい。
- 行政事務のDX化していくことが大事。

## 9 社会福祉法人 寿敬会

日時	6月27日(木) 10:00~11:00
場所	和歌山市平尾634
対応者	総務部長 上原浩、業務部長 雲出達也

(1) 活動や運営するにあたって、課題となっていること、また、課題を解決していくためにどのようにすればよいか。

選択肢	1. 人材の確保が難しい
解決策	介護現場での人材確保が厳しい中で、日常のルーティン業務に追われていることが現状である。まずは、介護現場の職員確保が先決であると考え。

〈ヒアリング〉

- ぎりぎりの人員で運営している現状で、余裕を持った運営をされているところもなかなかない。
- 人材に関しては、介護施設や事業所が増えてきている現状もあり、待遇のいいところへ移られる。

選択肢	6. リーダー（後継者）が育たない
解決策	人材が少ない中で「リーダー」となるものがない。リーダー養成研修といったものを開講する等、直接的なことを実施する。（開講等されているのであるが、実際の担い手になりそうな者へ情報は届いていない）

〈ヒアリング〉

- 技能実習を受け入れているが、リーダーになりたいという人材が少なくなっている。
- 役職にならなくとも現状維持でされている人の意見もある。

選択肢	10. 活動に必要な情報や専門知識が不足している（適切な相談者がいない）
解決策	だれが、どこで、なにを、どのようにといった風にどのような形で何を進めればよいのかと言った情報を得る機会を設ける。

〈ヒアリング〉

- サービス付き高齢者住居など増えており、他県から来ている。
- 防災などの助け合いなどは行っているが、地域共生社会についての話し合いができていない。
- 地域のつながりとしては健康体操を行っている。

## (2) プログラム別取り組み状況とその理由

### 《プログラムA》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	社会福祉法人という母体の中で、地域への開かれた事業所というスタンスで様々取り組んでいる。しかし、どうしても当法人の性格上、高齢者分野に限ってしまうことが多い。広い世代で誰もが集える、参加できる「場」づくりをするためにと考えてはいるが、対象者が限られてきてしまう面がある。広報においても、参加メンバーにおいても開催場所においても、様々、協働できる（協働してもらえる）人や場所等がどこにいるのか、どこにあるのかといった情報がすぐに手にとるようにわかるものがあればよいと考える。

#### 〈ヒアリング〉

- コロナ禍の影響でほとんどできなかった。
- 行事などは一度、ストップしてしまうとなかなか再開できていない
- つながりカフェ（不特定多数の人をお呼びして、お茶会したりした）では、専門職の人に相談できるようにしている。

### 《プログラムB》

選択肢	3. あまり取り組んでいない
解決策	当法人が被災した場合の備えや他の社会福祉法人などが有事の際における連携・支援の体制づくりは進んでいる。しかし、現状としては、有事における訓練を地域組織と協働し、実施できよう計画をしたいと考えはあるが、実際は進んでいないのが現状。また、福祉避難所として機能させるための取り組み、地域組織との連携がとれていないのが現状。地域組織と中継役を担ってくれる経験者や先駆者の方々から指導を得られる機会があればと考える。

#### 〈ヒアリング〉

- 法人同士であれば連携とりやすい
- 市内で断水があったことにより、細かなフローチャートを作成したり、協定を結ぶなり、よりつながりができた。
- 福祉避難所として機能するための地域内での連携ができていないこともある。
- 避難訓練を地域の人を巻き込むためにも顔の見える関係になっておかないといけない
- 備蓄についても施設によって違いがあるため、情報共有をしておく必要がある。
- 市からの補助があれば、各施設も整備しやすい。

《プログラムC》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	当法人では、措置によるサービス利用の方も多く、また、地域包括支援センターも受託していることもあり、ある程度の取り組みはあると思われる。しかし、プログラムにある「寄り添う支援」となると、日々、日常における関係性が重要となる。最近の一般的な希薄な関係性を打破するためには、行政等に「旗振り」をお願いできるような気楽に依頼できるようなハードルが低く感じられるような体制づくりが必要であると考え。また、具体的にどのような支援ができるのか、どのような事柄が求められているのかなどのヒントを得られる機会がほしいと考える。高齢者や障害のある方も就労できるよう、業務の切り分けを行い、無理なく就労できるような業務内容、就労環境を整備している。

〈ヒアリング〉

- 事業体で実施しているものがある
- 相談をつなげているところもある
- 独居高齢者のお食事会も相談につなげているところもある。
- つながりを持つための取り組みは行っていると思う。

《プログラムD》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	地域包括支援センターも受託しているため、業務としての相談窓口の機能は果たしているが、高齢者の分野に偏っていることは否めない。身近な相談窓口となれるように法人全体で努力はしているが、やはり「相談を受ける人」となると、他者にとっては近寄りたがたい存在となるのは否めない。近所のお姉さん、お兄さん、おじさん、おばさんといった存在になれるような「場」づくりやそういった人材育成的な「場」をつくる必要性を感じている。

〈ヒアリング〉

- 地域の人が入って相談できる場所にはなっていないと思う。
- 施設として命を預かる存在として出入りに厳しくしていかないといけないが、本来は地域のなかで、だれもが集まれる場所でいたいと考えている。
- 地域のことをなんでも話せる近所づきあいができる地域あってほしい。
- 地域の人に来てもらえる地域交流ホールの変えて工夫をおこなっている
- 夏祭りに人が多く来ており、交流のための大事な行事になっている。
- 広域的な取り組みとして社会貢献していきたいが、参加者が来るか心配。

《プログラムE》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	サービス提供側として、ケアプラン作成担当者側として様々な取り組みを行っているが、人手不足は否めないのが現状である。短時間でも取り組めることや近くで取り組めること等の情報を発信し、担い手を増やすこともあるが、担い手になるであろう人々に興味を持ってもらえるような「場」づくりができないかと考えている。

《プログラムF》

選択肢	2. 少しは取り組んでいる
解決策	法人内の人材にて、地域活動へ支援が行えるような体制はとっているつもりであるが、体制の充実となると困難である。コミュニティワーク機能の充実とともになるとさらに疑問である。地域福祉活動の支援を充実させるためには、行政の役割や取り組み、社協の役割や取り組みがもっとわかりやすくなる必要がある。福祉大会や社協祭り等が開かれており、参加する機会はあるが、集まっている人々は高齢者の方々がが多い感がある。一般的な社会であれば、子どもあれば成人の人も、高齢者もあれば障害を持った人もいて当然である。この当然の普通の人々が集えるような何か仕組みづくりをしなければ担い手や活動をさせある体制の充実には至らないと考える。

〈ヒアリング〉

きっかけがあれば動くところもあると思うが、どうつくっていくのかがわからない。

(3) 今後もっと充実してほしいと望む施策など

○「わかやま・元気ふくし計画」において、様々な調査や取り組みが行われているのはよくわかる。しかし、これらの取り組みや地域共生社会の必要性が浸透しているかについては疑問が残る。そのため、様々な年代や立場の方々がこの取り組みや必要性について、みて、触れて、感じるができるような機会をつくる必要がある。例えば、交流会・意見交換会・事例発表会など

〈ヒアリング〉

- 研修会などはあるが分野が限られているため、分野を横断した交流会はなかなかない。
- 施設の運営を優先して人材のことで頭がいっぱいになっている。
- 地域では地域共生社会の取り組みが必要となっている。
- 全体的に危機感がないと感じる場面がある。
- 隣近所は昔からの家があれば問題ないが、農地が宅地になると地域のつながりがうすくなる。
- 都市部から離れると横のつながりがあると思う。
- 団地やマンション、新興住宅のところはつながりがない
- 自治会に入る人が少なくなっており、自治会の存在感が心配になる。